

書き込み年表 advanced⑧、中国史 5(唐王朝中期～滅亡まで) (皇帝の年代は在位をあらわす)

620	太宗(李世民, 626~649)	(周辺諸国家)
	玄奘、インドへ出発(629, 645帰国)	(中央アジア) (モンゴル) (チベット) (朝鮮)
	東突厥を制圧(630)	西突厥 東突厥 吐蕃 高句麗 新羅 百済
	高宗(649~683)	最大の領土築く
盛期 全	西突厥を制圧(657)	周辺諸民族の統治
	新羅と結び、百済を制圧(660)	都護府 服属させた地に官吏・軍隊を派遣
	白村江の戦いで日本軍を破る(663)	唐の前期に6都護府
	新羅と結び、高句麗を征服(668) 朝鮮半島統一へ	都護府の下の地方 都督府・州・県
	都護府設置(670頃)	羈縻(きび)政策 羈縻:牛や馬の手綱のこと
	義浄、海路を使ってインドへ(671, 695帰国)	各地の族長を都督府・州・県の長官に任命
	(則天武后実権を握る) 武韋の禍	自治を認める間接統治
	中宗(高宗の子, 683~684)	睿宗(高宗の子, 中宗の弟, 684~690)
	則天武后自ら即位、国号を周とする	
	周 則天武后(690~705)	中国王朝史上、唯一の女帝
700	武後の死後、中宗が復位(705)	中宗(705~710) 河西節度使設置(710)
	中宗の皇后、韋后中宗を毒殺、睿宗復位(710)	睿宗(710~712) 節度使 辺境を防衛する募兵軍団の指揮官
	睿宗の子、李隆基(後の玄宗)韋后の勢力を追放(712)	現地から徴税する財政権を持つ
	玄宗(712~756)	開元の治(治世の前半)
	安定した統治の背後で少しずつ制度が崩壊	藩鎮 節度使の治める地方政府
	均田制のゆがみ 逃戸(逃亡する均田農民)の問題	初め科挙官僚→異民族の軍人節度使に
	募兵制実施(722) (府兵制廃止(749))	兵の確保厳しく(府兵制により)
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
盛期 全	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
	兵を募って雇う制度	
衰退期	揚玉環を妃に、楊貴妃となる(745)	外戚の揚国忠、宰相に
	安禄山(ソグド系の武将) 3節度使を兼任	
	安史の乱(755~763)	玄宗の信任を得た2人が対立
	安禄山、揚国忠打倒を掲げて挙兵 洛陽占拠、国号を大燕とする	
	安禄山、息子に暗殺される	部下の史思明挙兵
	ウイグルの援助で安史の乱鎮圧(763)	ウイグル・吐蕃(チベット)、外地を占領
	藩鎮(節度使)の独立 安史の乱後、内地にも節度使置かれる	
	宦官の専横始まる 塩の専売行われる	
	両税法施行(780)	両税法 所有する土地の大小に従って課税
	宰相楊炎、皇帝徳宗に建議	基本銭納(貨幣で納める)、穀物・布での代納もあり
800	土地所有公認される(均田制崩壊)	
	土地所有公認される(均田制崩壊)	
900	黄巢の乱(875~884) 王仙芝と共に挙兵	弱乏した民衆の反乱、流民・強盗が主力
	黄巢 塩の密売人?、科挙落第生?	一時長安占領
朱全忠、唐を滅ぼす(907, 後梁の太祖に)	朱全忠 黄巢の乱鎮圧に活躍	唐の統治事実上終了